

項目	規格	試験方法						
使用温度範囲	- 10 ~ + 60	最大電圧を印加した時、使用可能な周囲温度範囲。						
抵抗値 (at 25 °C)	定格値を満足します。	周囲温度 25 °C において、最大電圧 3 分印加後、室温 (25 °C) に 2 時間放置した後、1.5 Vdc 以下 (測定電流 10 mA 以下) の直流端子電圧を用いて測定する。(16V シリーズはリード線のキンク 2 mm 以内に測定端子を接続し、4 端子法で測定すること。)						
耐電圧	異常はありません。	周囲温度 25 °C において、ポジスタ®の端子間に、0V より徐々に印加電圧を上昇させ、最大電圧の 120% (16V シリーズは、110%) の交流電圧を 180 ± 5 秒間印加する。 (ただし、直列に保護抵抗を接続し、ポジスタ®に流れる突入電流を最大電流以下に制限すること。)						
端子引っ張り強度	リード線は損傷なく耐えます。	ポジスタ®本体を固定し、各端子の軸方向に下表に規定する値の荷重を徐々に加え 10 秒間保持する。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>公称リード線径</th> <th>荷重</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.6mm 以下</td> <td>4.90N</td> </tr> <tr> <td>0.65mm 以上</td> <td>9.80N</td> </tr> </tbody> </table>	公称リード線径	荷重	0.6mm 以下	4.90N	0.65mm 以上	9.80N
公称リード線径	荷重							
0.6mm 以下	4.90N							
0.65mm 以上	9.80N							
端子曲げ強度	リード線は切断しません。	リード線の引き出し軸が、垂直になるように下表に規定する値の荷重を釣り下げ、90 度曲げ元に戻し、さらに逆方向に 90 度曲げ、再び元に戻す。以上の操作を 1 回徐々に行う。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>公称リード線径</th> <th>荷重</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.6mm 以下</td> <td>2.45N</td> </tr> <tr> <td>0.65mm 以上</td> <td>4.90N</td> </tr> </tbody> </table>	公称リード線径	荷重	0.6mm 以下	2.45N	0.65mm 以上	4.90N
公称リード線径	荷重							
0.6mm 以下	2.45N							
0.65mm 以上	4.90N							
はんだ付け性	リード線の円周方向 3/4 以上で、軸方向に浸したところまで切れ目なく、はんだが付着しています。	リード線をロジン (JIS K 5902) のイソプロピルアルコール (JIS K 8839) または、エタノール (JIS K 8101) 溶液 (約 25wt%) に 5 秒 ~ 10 秒浸漬し、次に本体の根元から 2.0 ~ 2.5 mm のところまで、2.35 ± 5 のはんだ (JIS Z 3282 H60A) 溶液中に 2 ± 0.5 秒間浸す。						
はんだ耐熱性	抵抗変化率 試験前の値に対し：± 15% 以内 表示は読めます。	リード線を本体の根元から 2.0 ~ 2.5 mm のところまで、350 ± 10 のはんだ (JIS Z 3282 H60A) 溶液中に 3.5 ± 0.5 秒間浸せきする。そして、室温 (25 °C) に 24 ± 4 時間放置後、抵抗値を測定する。						
耐湿試験	抵抗変化率 試験前の値に対し：± 20% 以内 表示は読めます。	温度 40 ± 2 °C、湿度 90 ~ 95% の恒温 恒湿槽中に入れ、500 ± 4 時間放置したのち、大気中に取り出し乾布で軽くぬぐい、室温 (25 °C) に 1 時間放置し、抵抗を測定する。						
高温負荷	抵抗変化率 試験前の値に対し：± 20% 以内 表示は読めます。	温度 60 ± 3 °C の恒温槽中において、最大電圧を 1.5 時間加え 0.5 時間休止するサイクルを 1000 ± 10 時間繰り返した後、室温 (25 °C) に 1 時間放置し、抵抗を測定する。 (ただし、直列に保護抵抗を接続し、ポジスタ®に流れる突入電流を最大電流以下に制限すること。)						